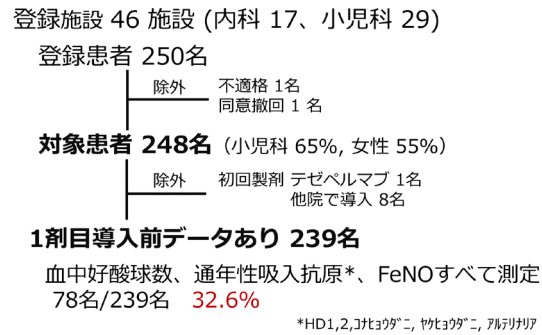


登録施設、患者数



登録時の年齢分布 内科・小児科別

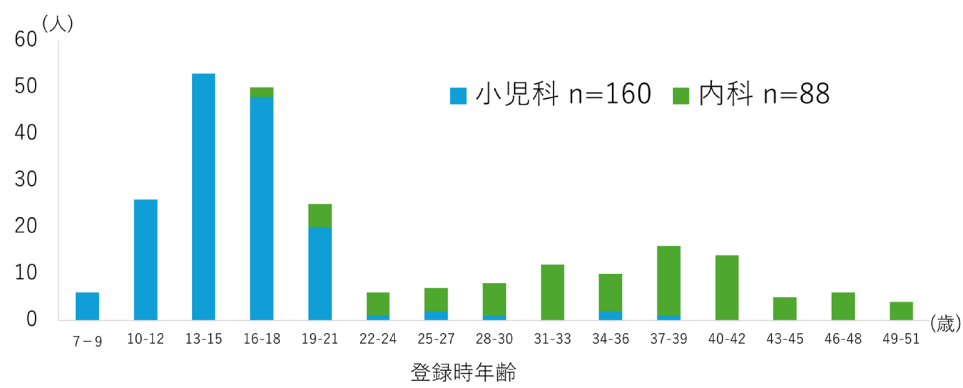


図 2. EDC 登録患者年齢分布 内科・小児科別

男女別登録時年齢

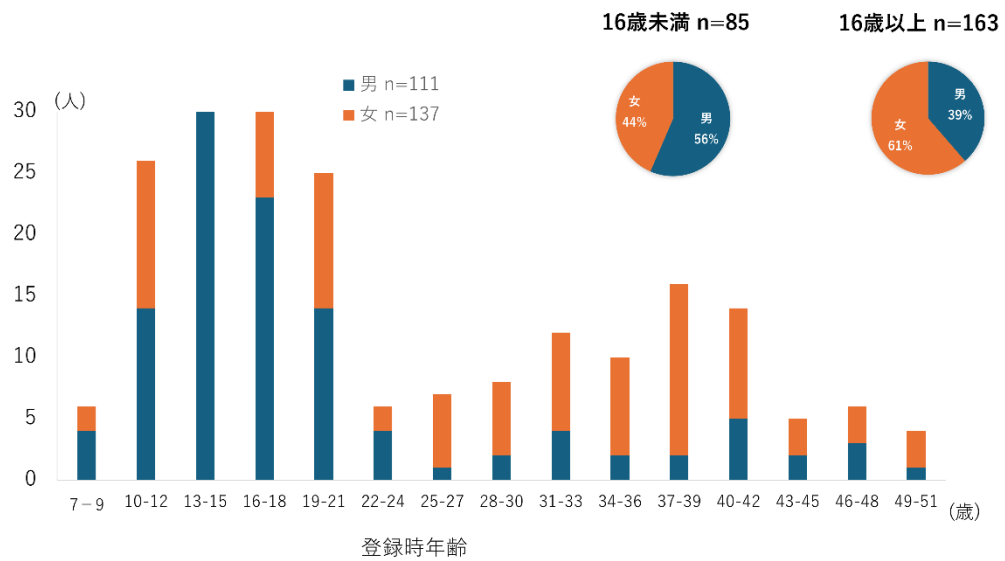


図 3. 登録患者年齢分布 男女別

喘息発症年齢

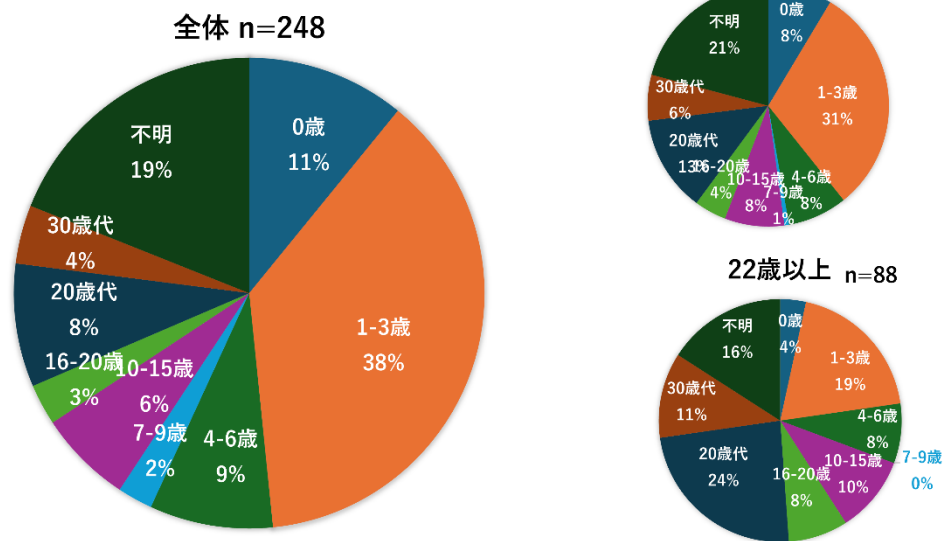


図 4. 喘息発症年齢

生物学的製剤導入時年齢

※他院で初回導入された例を除く

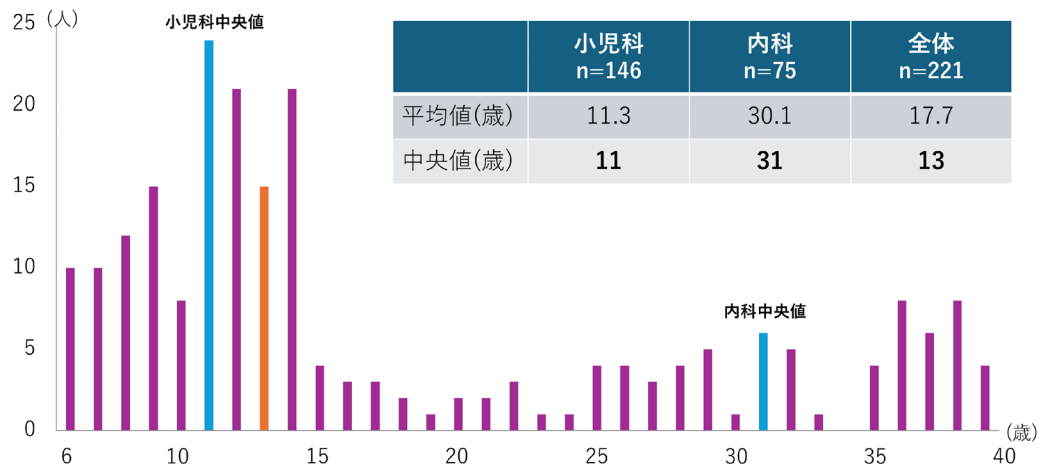


図 5. 生物学的製剤導入年齢 内科・小児科比較

生物学的製剤導入時BMI

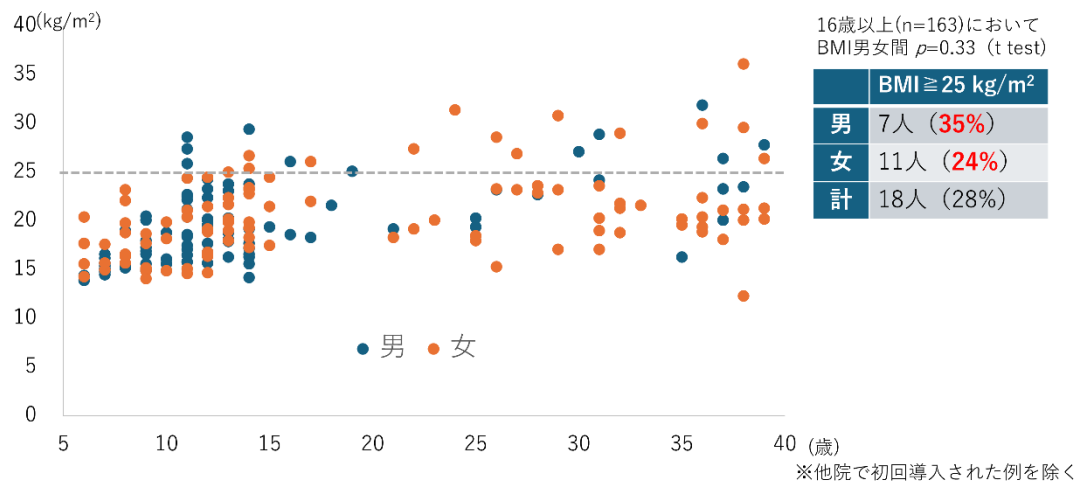


図 6. 年齢性別別 BMI

喫煙の有無

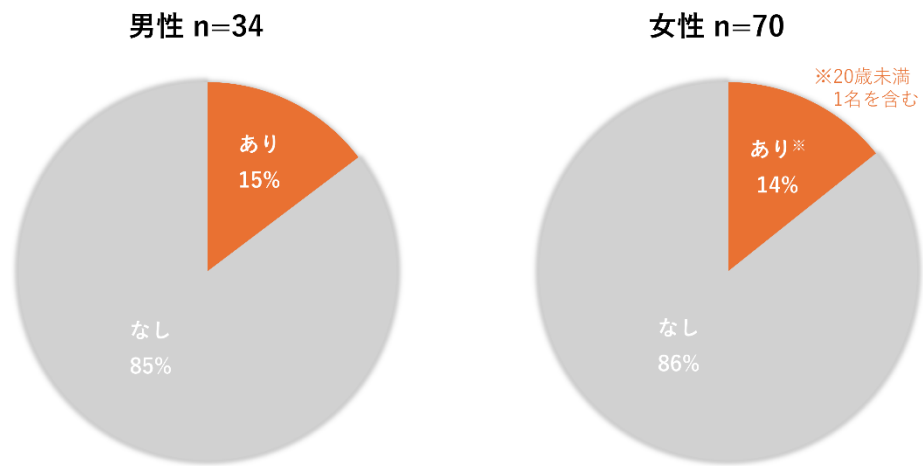


図 7. 成人の喫煙率

皮下免疫療法（SCIT）・舌下免疫療法（SLIT）

現在使用中または使用歴ありの割合 内科 n=88、小児科 n=160

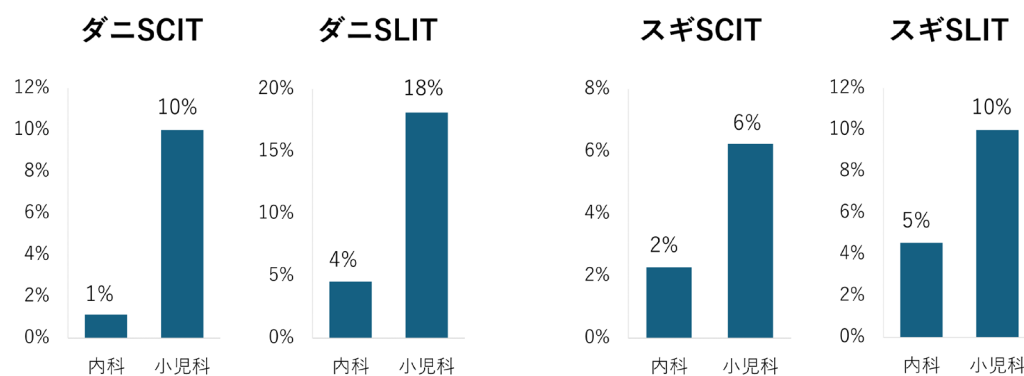
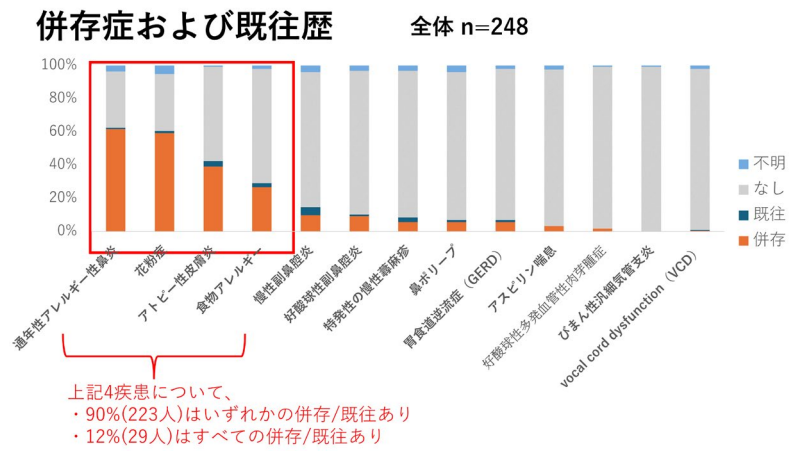


図 8. アレルゲン免疫療法 実施率

A



B

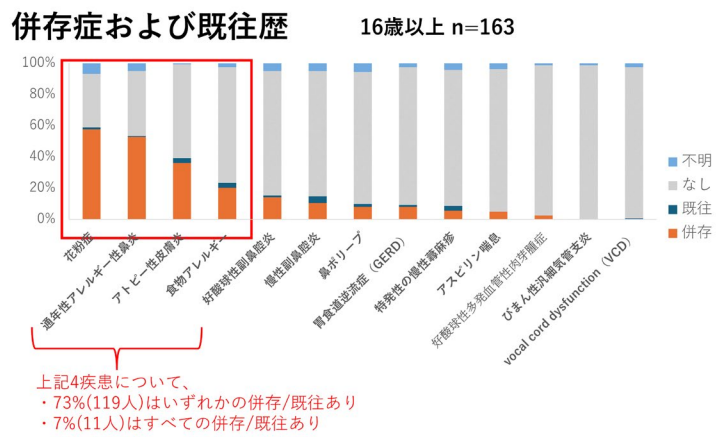
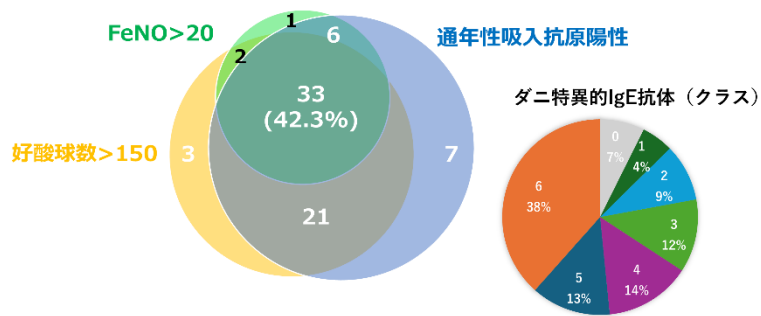


図 9. 併存症の頻度 全体、16 歳以上

初回導入前の2型炎症マーカーについて n=78

いずれか陽性 73 (93.6%)

すべて陰性 5 (6.4%)



多くの患者がいずれかの2型炎症マーカーが陽性であった。

図 10. 生物学的製剤導入前の 2 型炎症マーカー

初回導入の薬剤

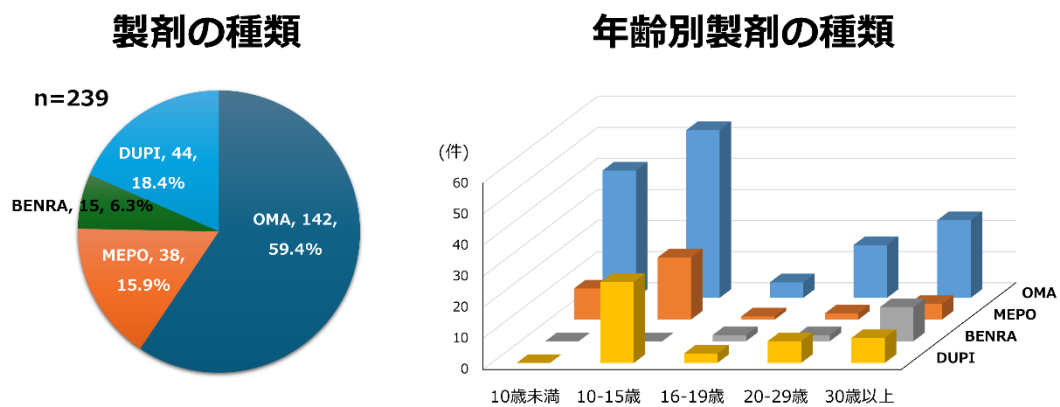


図 11. 初回に導入された生物学的製剤

初回入前のデータ

症例数	n	全体	OMA	MEPO	BENRA	DUPI	p
年齢*	239	13	11	12	35	14	<0.0001 ^a
血中好酸球数 (/μL)*	122	329	238	480	338	462.5	0.044 ^a
Total IgE (IU/ml)*	140	583	413	1344	373	1468	<0.0001 ^a
FeNO (ppb)*	128	28	21	36	20.5	54.5	0.015 ^a

*中央値
^ap values were calculated by the Kruskal-Wallis test.

好酸球数・FeNOと選択製剤

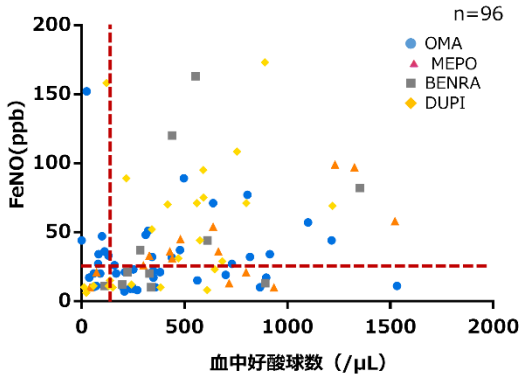
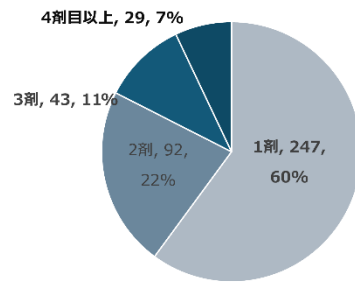


図 12. 生物学的製剤と 2 型バイオマーカーの関連

A

使用生物学的製剤の総数 述べ411件



B

使用製剤すべて（2剤目以降を含む）

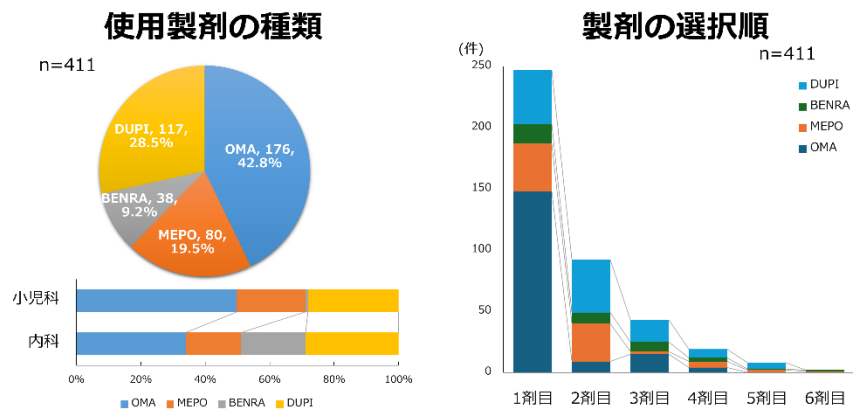


図 13. 生物学的製剤の延べ使用回数と種類

各製剤導入時の情報（再導入のぞく）

症例数	(n)	全体	OMA	MEPO	BENRA	DUPI	p
年齢*	362	14	12	13	35.5	15	<0.0001 ^a
導入1年前増悪あり(%)	342	45.2	48.9	44.8	45.5	40.0	0.595 ^b
EIBあり(%)	341	44.2	51.8	55.2	6.1	38.6	<0.0001 ^b
コントロール状態(点)							
C-ACT(27点満点)*	50	22	21.5	20	-	23	0.179 ^a
ACT(25点満点)*	112	18	16	20.5	16	19.5	0.333 ^a
経口ステロイド使用率(%)	343	23.0	19.7	23.9	42.4	20.8	0.042 ^b
ICSアドヒアランス(%)	338						0.602 ^b
良好(80%<)		84.0	84.3	78.8	90.9	84.8	
やや不良(50-80%)		10.7	10.0	12.1	6.1	12.1	
不良(≤50%)		5.3	5.7	9.1	3.0	3.0	
血中好酸球数(/μL)*	247	224.0	209.5	400.0	224.0	132.0	0.053 ^a
Total IgE(IU/ml)*	210	471.5	403.0	520.0	352.0	865.0	0.014 ^a
%FEV1(%)*	229	89.7	91.3	84.9	87.0	88.4	0.352 ^a
%V50(%)*	228	73.0	77.2	67.3	58.4	72.9	0.442 ^a
%V25(%)*	228	63.4	66.9	63.4	59.3	60.9	0.442 ^a
FeNO(ppb)*	198	26.5	21.0	33.5	27.5	30.0	0.031 ^a
喘息以外の治療対象疾患(n)							0.0047 ^b
アトピー性皮膚炎			2	3	0	16	
鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎			3	3	3	19	
特発性の慢性蕁麻疹			4	1	0	1	
好酸球性多発血管性肉芽腫症			1	4	1	1	
季節性アレルギー性鼻炎			5	3	2	5	

*中央値

^a p values were calculated by the Kruskal-Wallis test. ^b p values were calculated by the chi-square test.

図 14. 製剤導入前の臨床情報

各製剤の効果

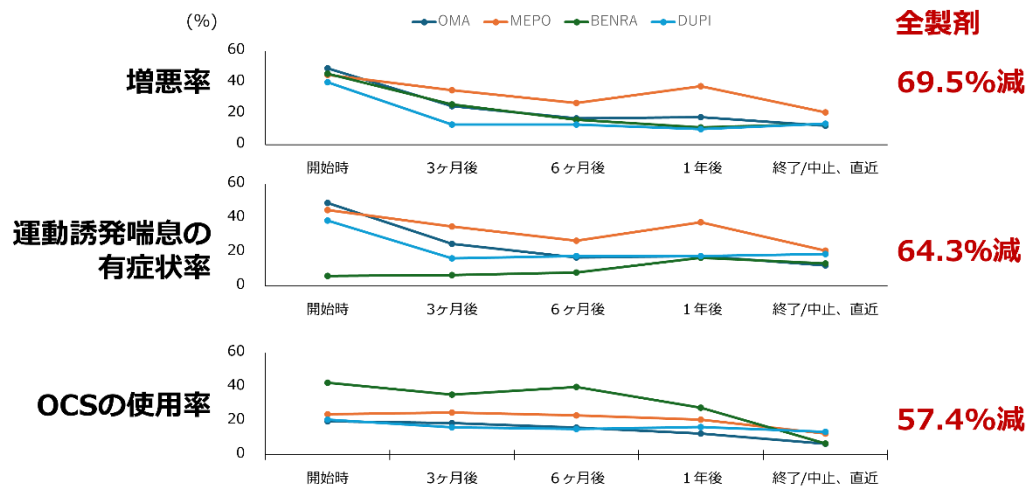


図 15. 生物学的製剤使用後の臨床指標の変化

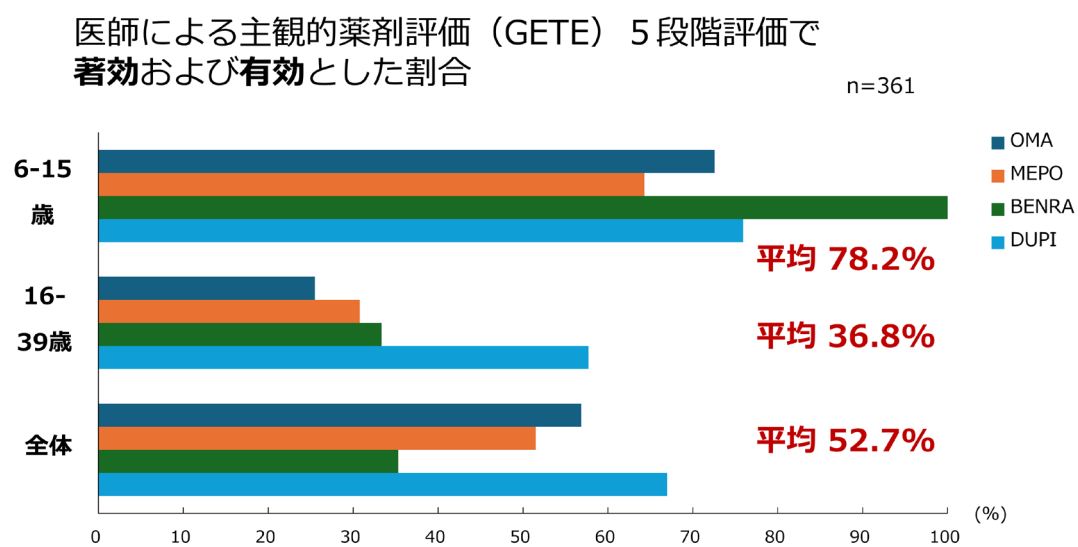


図 16. 医師による患者毎の GETE による薬剤評価

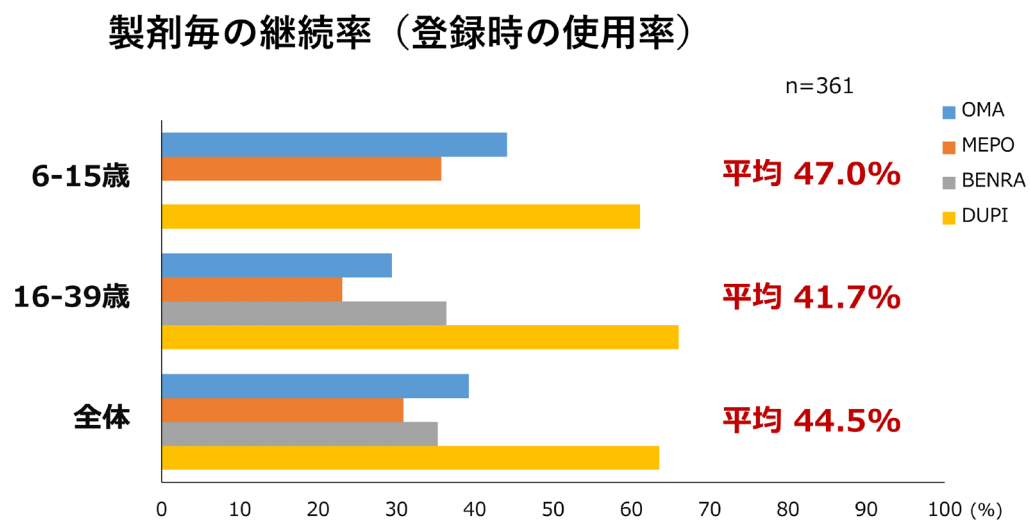


図 17. 製剤毎の継続率（登録時に使用を継続していたか）